

2022 (令和4年) 12/ 8 木曜日

小学生新聞



発行所 毎日新聞東京本社 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1

配達お問い合わせ 購読お申し込み

0120-468-012 (6-21時、一部地域は平日10-18時)

定価 1か月1750円(本体1620円、消費税130円)・1部70円



毎日小学生新聞編集部 郵便 〒100-8051 (住所不要) ファクス 03-3212-2591 電話03-3212-0321 メール maishou@mainichi.co.jp

しめん きょうの紙面



おさ イライラを抑 える 5面

3面に 6さいからの ニュース

日本語どんぶらこ 4面

「おじさん構文」とか

おもしろ古典塾 6面

ぎけいき 義経記



保護者にお知らせ

「毎小メール」

登録は▲こちら

ふたご座流星群 14日ピーク



ふたご座流星群と周辺—長野県小川村の小川天文台で2021年12月14日午前3時55分

狙い目は月が出る前の時間帯

冬の夜空を彩る「ふたご座流星群」が14日に出現のピークを迎えます。ふたご座流星群は、1月のしぶんぎ座流星群、8月のペルセウス座流星群とともに「3大流星群」と呼ばれています。第1、3土曜日(一部地域は翌日)の連載「天体観測図鑑」を執筆している「ガリレオ博士」こと大西浩次さんが、特別編としてふたご座流星群について解説してくれました。

特別編



に四方八方に流星が流れるように見える現象です。ふたご座流星群のチリを放出する天体は、小惑星「ファエトン」です。太陽の周りをわずかに1・43年周期で公転し、近い時は太陽から最も近い位置にある水星よりも太陽に近づき、地球の周囲軌道の近くを通過します。

一年で最も日の入りの早い時期はいつだと思えますか？ 実は、今なのです。ちなみに日の出は1月の中旬が最も遅くなります。この日の出と日の入りの時間の変化から、最も夜の時間が長くなるのが冬至(今年は12月22日)です。

さて、この時期、ふたご座の2等星カストル付近を放射点(流星が飛び出す中心となる点)とする「ふたご座流星群」の活動が始まっています。今年のピークは14日午後10時ごろです。この前後には1時間当たり数十個の流星が見られるかもしれません。

流星は、太陽系内を回っている小さなチリ(数ミリ程度)が地球の大気に衝突して発光する現象です。流星群は、彗星などが放出した帯状に広がったチリが次々と地球の大気に衝突してくるため、ある一点(放射点)を中心

ファエトンは、彗星のように楕円形の軌道を持ち、衝突する可能性もあるほど地球に近づく特異な小惑星として注目されています。日本では、2024年度にファエトンに向けて探査機「DESTINY+」(アステイニープラス)を打ち上げる予定です。ふたご座流星群の観察は、14日夜がおすすです。ピークの午後10時ごろは明るい月が昇ってくるので、観察するなら放射点が昇ってくる午後7時から月の出前までがいいでしょう。なお、月の出後も、月と反対方向を観察するなど工夫すれば、明るい流星は見つかるでしょう。14日の前後も流星は見えますが、数はピーク時の数分の1(1時間当たり10個程度)でしょう。寒い初冬の夜です。風邪をひかないように防寒に十分に注意して観察しましょう。